国語教育研究　第五十五号　別刷
平成二六年三月三一日　発行

広島大学図書館蔵『百人一首聞書』享禄三年写本　翻刻（一）

広島大学日本語史研究会

広島大学図書館蔵『百人一首聞書』享禄三年写本　翻刻（一）

広島大学日本語史研究会

一、広島大学図書館蔵『百人一首聞書』享禄三年写本について

ここに翻刻する『百人一首聞書』は、広島大学中央図書館貴重書室に蔵される、享禄三年（一五三〇）二月の写本である。書名は、「附属図書館中央図書館貴重資料室蔵書目録」（位藤邦生編『広島大学蔵古代中世文学貴重資料集　翻刻と目録』〈二〇〇四年、笠間書院〉）に依る。

本書は、次の奥書から、青蓮院法印經厚（一四七六―一五四四）の百人一首講義の聞書自筆本であることが知られる。

此百首御聞書会拝見／申上之旨大底無相連者歟

享禄三年二月四日／　法印經厚（花押）

原本は、巻子装であり、歌の作者と歌への注が紙背に有る。

吉海直人編著『百人一首注釈書叢刊1　百人一首注釈書目略解題』（一九九九年、和泉書院）で、「10百人一首経厚抄」として掲げられるものであり、「百人一首抄」「経厚抄」「百人一首秘抄」などの別称を持つ。

本広島大学蔵本（大国 2545 ワカ 74）は、巻頭第六首までを失っている。しかし、本書を室町末期に写した『百人一首抄』（WA16-130）が国立国会図書館に存し、これによって巻首部分を補うことができる。この国会図書館本は、全文のカラー写真が公開されている（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541078）。冊子一冊本であり、広島大学蔵本の裏書きは、後半に一括されている。他に、龍谷大学本・東大寺本・穂久邇文庫本などの写本が知られている。

なお、広島大学蔵本は、『百人一首注釈書叢刊2』（一九九五年、

和泉書院）に巻首・巻末写真が掲載され、「百人一首経厚抄」として、位藤邦生による解題・翻刻がすでに存する。書誌その他は、この解題を御参照願いたい。その翻刻からも多くの学恩を得た。

広島大学日本語史研究会は、本書の本文はもとより、詳細な振り仮名と日本語アクセントを示した声点の、日本語史資料としての価値に注目し、原本調査に基づいて、本書の輪読を進めてきた。位藤の解題にも触れられるとおり、振り仮名は本行の読みと異なる部分があり、いわゆる四つ仮名の混同例も見られることから、本文書写時よりやや降る時の加点かもしれない。本研究会は、これらの訓点を再確認し、原本の姿に近い書式での翻刻を公刊することも、現時点において意味のあることであろうと考えた。

幸い、広島大学図書館から翻刻出版の許可を頂いたため、全文の翻刻を公にする。原本閲覧ならびに翻刻の御許可を賜わった広島大学図書館に対し、心中より御礼申しあげる。

紙幅の都合上、本号には、第三十首までの本文・注釈と裏書きとを掲載する。大方のご批正をお願いしたい。

（以上、佐々木　勇　記）

二、翻刻

〈凡例〉

一、本翻刻は、広島大学図書館蔵『百人一首聞書』（大国 2545 ワカ 74）の原本に基づき、その全体を、現行の字体に改めたものである。仮名遣いは、原本のままとした。行取りも原本のままとしたが、紙背注は追い込み式とした。

一、虫損・破損で読み得ない箇所は□とし、改行を／で示した。割書は（　）に入れ、割書内の改行も／で示した。

一、紙背には、歌作者と歌への注が有る。それらの注は、各歌の後に［裏書］として、一字分下げて挿入した。この［裏書］には、朱の合点二種が存する。＼は歌作者への注、〻は歌に対する注に冠されている。

一、原本に加点された朱声点は、（平）・（上）・（平濁）・（上濁）などと認定したものを、当該字の直下に記した。

一、翻刻にあたり、検索の便のため、百人一首の歌番号と本書注の行数を付した。また、（第〇紙）として紙数を、表面の当該箇所に挿入した。

一、その他、必要と思われる注を、［　］に入れて当該箇所に記した。

一、本翻刻は、佐々木勇・坂水貴司・申智娟・植村志保・加藤ふみ・最所あきこ・龍田優・菅近晋平・服部芳野・楢崎寛之・東影あさひ・堀場菜月・

糸山由樹・柴田早侑里・西浦瑞姫で作成した。
なお、本文入力作業は、坂水貴司・申智娟が行ない、裏書きは佐々木が担当した。翻刻の最終点検は、坂水貴司と佐々木とで行なった。

〈翻刻〉

（第一紙）

安陪仲麿

古今
7 天の原ふりさけみれは春日なるみかさの山にいてし月かも
羇旅

［裏書］／中務大輔正五位上船守子　／元正天皇　霊亀二年八月廿三日為学生／渡唐朝賜性朝氏　／嵯峨天皇御宇左大弁宰相藤常継ヲ重テ唐／朝へ被遣テ時飯朝ス／又無飯朝ト云儀アリ　／又安陪朝衡子ト云ゝ不審／或抄云安陪仲丸遣唐［唐ハ抄物書］使ニ立シハ　桓武天皇ノ御時也　唐玄宗皇帝ノ時代也云ゝ　此儀尤不審云ゝ

／江談第三　安倍仲麻呂讀歌事　霊亀二年為遣唐使件仲麻呂渡唐之後不飯朝於漢家樓上餓死吉備大臣之後渡唐／之時見鬼形与吉備大臣言談相教唐土事件仲麻呂不帰朝人也讀哥雖不可有禁忌尚不快歟如何師清手返也／アマノハラフリサケミレハカスカナルミカサノ山ニイテシ月カモ件歌ハ仲丸讀歌ト覚候遣唐ニヤマカリタリシ唐ニテ讀歟如何／事ニマカリタリシソ可有禁忌之事歟永久四年三月或人問師遠

〈もろこしにて月をみてよみける　天のはら――

・此歌は　むかしなかまろもろこしにものならはしにつかはしたりけるに　あ／またのとしをへてえかへりまうてこさりけるをこの國より又／つかひまかりいたりけるにたくひてまうてきなんとて出たちけるに／めいしうといふ所のうみへにてかの國の人むまのはなむけしけり　よる／になりて月のいとおもしろくさしいてけるをみてよめるとなん　かたり／つたふる

7－1 フリサケトハフリ仰ノクト云詞ナリ振離振放ト書
7－2 うちあふのく躰ナリ此哥古今ニコトカキ懇ニアリ
7－3 明州ノ津マテモロコシノ人餞スル夜ノ哥也帰朝ノ志　故彼國ノ月モハヤ既ニ三笠ノ山ニ出シ月ナ
7－4
7－5 ルヨト見ナス由ナリ三四句ハ春日ノ中ニアル三笠
7－6 山ナレハ云大和ナリ

喜撰法師

古［破損］今
8 わか廬は都のたつみしかそすむ世をうち山と人はいふなり
雑下

［裏書］／山城国乙訓郡人也　／作髄脳是也　／又基泉　／或撰　／或撰僖／又鴨長明無名抄云ムロトノヲクニ廿余町ハカリ山中ヘ入テ宇治山ノ喜撰／カ住ケル跡也家ハナケレトタウノ石ナトサタカニアリ　コレヲ必尋テ見ヘキ／事也

〈題しらす

8－1 宇治山ハ都ノ巽ニ當リタレハカク云シカソトハ

8-2 サソト云心ナリ サモ住物ヲト云三ノ句也世ヲ憂

8-3 山ト人ハキラヘトモ我ハ住得タリト云心ナリ此巽ト

8-4 云字ニ對シテ見時うち山ノウト云字ヲ東方

8-5 ノ卯ノ字ニ當テ人ハ卯ノ方ノ様ニ云ト憂ノ

8-6 字ニ寄テ讀ル也コレ古歌ノ躰ナリ昔ハ菟道ト

8-7 書テうちト讀此字ニヨリテ也いふなりノ也

8-8 ノ字一首ニクミアハヌ心チノスル也コレヲ暁ノ雲ニ

(第二紙)

8-9 アヘリト古今ニ云ヘリ

小野小町

古今

9 花の色はうつりにけりないたつらに我身世にふるなかめせし間に

春下

[裏書]／出羽國郡司常澄女也

〈題しらず

9-1 うつりにけりなト云ニ歎ク餘情ノアル也假令今年ハ

9-2 花ノサカヌヨリ可ト見ナト有増シカイツノ程ニヤラン

9-3 花ノウツロウ比ニナリヌレハ徒ナル世ノワサニ引レテ

9-4 今年モカク花ヲ過スヨト身ヲ恥タル歌ナリ世ニ

9-5 フルナカメト云ニ霖雨ノ心ヲモチテ我徒ニ花ヲ

9-6 過スハ霖ノ花ヲクタスニコトナラスト云心ノアルナリ

9-7 此歌に文字多ケレトモ秀逸ナレハアシクモ不レ聞也

9-8 なかめト云ニこれらの哥ハ見心ハナシ物思フ由ナリ物

9-9 思フ時ハウカ〳〵ト物ヲマフレトモソレトモサタカナラヌ

9-10 ヤウノ躰ナリ長目ト書

後撰

10 これや此行も帰るもわかれてはしるもしらぬもあふさかのせき

雑一

蝉丸

[裏書]／會坂蝉丸是也 ／佐國目録ニ蝉丸ハ仙人云〻 ／鴨長明無名抄云

相坂ノ関ノ明神ト申スハ／昔ノ蝉丸ナリ彼ワラヤノ跡ヲウシナハスシ

テソコニ神ト成テ住給フナルヘシ今モ打スクルタ／ヨリニ見レハ昔

深草御門ノ御使ニテ和琴習ヒニ良岑宗貞良少将トテカヨハ／レケル

昔ノコトマテ面影ミワカヒテイミシクコソ侍レ ／或抄云或人申ハ古

物ニ會坂ノ／翁トカケリ 俗也云〻 ／或抄云佐国目録ニ蝉丸ハ仙人

也博雅依不随身琵琶只以／譜請テ帰云〻 又問件曲近代有ヤ 被答云

不然 又問云件目暗名如何／被答云慥不覺但テ歳ト云カヤ云〻 又琵

琶引ト云事僻事也和琴ヲ引／トソ云傳タル 然ハ俊頼カ琴モ僻説カ

又流泉啄木曲皆世ニ傳ハレル曲也如何或童／或法師云〻 禿丁ナレハ

両儀無相是歟

〈あふ坂の関に庵室をつくりてすみ侍けるに行かふ人をみて

10-1 これや此トハコレコソソレヨト證據ヲ取詞ナリ世上

10-2 ノ有サマ會ハ必ス別ル別ルト見ハ又逢者ナリ

10-3 其躰此関ヲ過人ニテシラレタリト云歌ナリ能〻

10-4 心ヲツケテ可レ思由フルクヨリイヘル哥也此歌ヲ

10-5 アマリ深クイハントテ六道輪廻ノ作法ヲヨメルナト

10-6 アルハコト〳〵敷曾尺ナルヘシ只世上ノ理ニテ愛別

10-7 離苦ノ趣ハカリニテモ其心は甚深ナルヘシ コト

10-8 カキ後撰ニ見タリ　はなはたふかきことなり

参議篁

11わ(上)た(上濁)の原八十嶋かけて漕出ぬと人にはつけよ海士のつり舟

羇旅

[裏書]／参議正四位下岑守一男／仁明天皇御宇 承和五年配流／唐使為副使座事云〻／左大弁従三位／仁壽二年正月卒

〻おきのくに丶なかされける時に舟にのりて出たつとて京なる人の／もとにつかはしける

11-1 わたの原トハ海ノ惣名ナリ八十嶋トハ攝津ニモ有トモ

(第三紙)

11-2 只多ノ嶋ナリ人にはつけよトハ宮中ノ人ヲサ[推読]シ

11-3 テ云 左遷ノ舟ナレハ便船モナキマ丶ニ海士ノ釣舟ト ながされ人のふねのことなり

11-4 喚カケタルカ 餘 情 無レ極 由古来風躰抄ニモカケリ

11-5 此左遷ハ仁明天皇ノ「御時」遣唐使ノ舟ノ一ニ乗ランと

にほんよりからへつかひのこ[マヽ]るふねなり

11-6 有シアラソヒ故ノ事也

僧正遍昭

古今

12天津かせ雲のかよひち吹とちよおとめのすかたしはしとゝめむ

雑一

[裏書]／桓武第十御子大納言安世八男／嘉承三年三月廿一日仁明天皇崩／四十一 仍同日出家／号花山僧正遍昭／寛平二年入滅七十六／俗名良岑／宗貞／蔵人頭従五位上左近少将

〻五節まひめをみてよめる

12-1 五節ノ舞姫ヲ見テ讀ルト也古ヘ清見原天皇ノ

12-2 御時天人ノ下リシ面影ヲ今ノ舞姫ニ寄テ云也

12-3 彼天皇吉野ノ宮ニシテ琴ヲアソハシケルヲ感シテ[「シテ」合字]

12-4 天人下リテ袖ヲ五度返シテ舞シ也其時天皇

12-5 ノ御歌ニをとめらかをとめさひすもから玉をた

12-6 またにまきてをとめさひすもトアリコレ五節ノ

12-7 ハシメナリ今ノ歌ノ一首ノ心只今ノ舞姫ヲシハシトゝ

12-8 メントテ云ヲ天女ニ寄テ雲のかよひち吹とちよト云也

後撰

13つくはねの峯より落るみなの河恋そつもりて渕となりける

恋三

陽成院御製

[裏書]／清和第一御子／御母皇大后宮藤原高子二条后／第五十七代／予云 河海抄二二

〈御諱貞明〉〈御在位八年〉〈八十一歳崩〈陽成院を二条院と号云〉〉
脱履之後〈御此院〉

〈つりとの〉御こにつかはしける

13-1 此哥上三句ハ譬ナリ一滴ノ漸ク積リテ此ミナ
ひとしたゝれ
13-2 ノ川ノ深ク成如クニ思初シ心ノ次第ニ今限リモ不知
13-3 成ヌルヲ渕ニ寄テ讀給ヘル哥也 釣殿宮ヘノ御製也
河原左大臣

古今
14 みちのくの忍ふもちすり誰ゆへにみたれそめにしわれならなくに
恋四

[裏書]〈源融〉〈嵯峨天皇第十三御子〉〈母正四位下大原全子〉
〈寛平七年八月廿五日薨八十〉

〈題しらす〉

14-1 陸奥ノ忍ノ郡ヨリ紋摺トテ乱タル紋アル物ヲ
わうしゆうの事なり
14-2 奉リシナリ其乱レタルヲ見テ誰故ニカク乱ルラン
(第四紙)
14-3 我ハ思フ人ノアレハコソ乱レソメヌレト云心ナリ或儀ニ
14-4 誰故乱レソメシ我ハ君故ニコソ乱ルレト云儀アリ只前
14-5 ノ儀ヲ可レ用也

光孝天皇御製

古今
15 君かため春の野に出てわかなつむ我衣てに雪はふりつゝ
春上

[裏書]〈仁明第三御子〉〈御母贈皇太后宮藤原澤子〉〈贈大臣総継女也〉
〈第五十八代〉〈御在位三年〉〈御諱時康〉〈又号仁和天皇〉〈又号〉
〈小松天皇〉〈五十七歳崩〉

〈仁和のみかとみこにおましく〉ける時に人にわかなたまひける御〈うた

15-1 此御哥表ハ上ノ御為ニ若菜ヲ摘テ奉ル里人ナ
15-2 トノ袖ノ雪ヲ打ハラフトイヘル苦労ノ由ナリ裏ノ
しんらうの事なり
15-3 心ハ臣ヲ指テ君トアソハス也此若菜ヲタマウ
15-4 御志ハ御衣ノ袖ノ雪ヲ打拂ヒテ摘給ヘル程ノ
15-5 御惠ソト云心ナリ此儀ヲ知シメン為ニ古今集ニコト
15-6 カキヲ具ニカケリ

中納言行平

古今
16 たち別い(平)な(上)は(平濁)の山の峯におふる松としきかはいまか
へりこむ
離別

[裏書]〈阿保親王男〉〈奈良天皇孫娶〉〈桓武天皇女〉〈伊登内親王〉
〈正三位民部卿〉〈按察使〉〈仁和三年被仕〉

〈題しらす〉

16-1 此哥行平卿因幡ノ國ノ任ノ時ヤヨメリケントアリ任
すむ〔ママ〕
16-2 ハテヽ上ラントセシ時ワレ此國ヲいなはト云秀句ナリ

16-3　下句ノ心我ヲ又待人アラハ再任モスヘシト云心ヲ今ふたゝひきてすまんと云心なり

16-4　かへりこむと云也今トハ亦ト云心ナリ

古今
17　千早振神世もきかす立田河から紅に水くゝるとは
秋下
在原業平朝臣

［裏書］／阿保親王第五男　／母桓武天皇女 伊登内親王　／蔵人頭
左近中将従四位下

〈二条の后東宮のみやす所と申ける時に御屏風に立た河にもみちなかれ／たるかたかけりけるを題にてよめる

17-1　神代もきかすトハ神代ニ神變神通神力ノ有シ

17-2　時モカ様ニ水ノ紅ニ流ルゝヲハ未聞ト云ナリ水くゝるトハ満山ノ紅葉ノ下ヲ行水ノ躰ヲイヘハくゝるト云

17-3

17-4　字専用也

古今
18　住の江の岸による浪よるさへや夢のかよひち人めよくらむ
恋二
藤原敏行朝臣

［裏書］／陸奥按察使冨士九男　／母正四位下刑部卿紀名虎女能書云〻　／蔵人頭左近／中将 従四位上　／左近兵衛督

〈寛平御時后宮哥合の哥

（第五紙）

18-1　上二句ハ序ナリ下三句ノ心書人目ヲ憚ル心ノ夜ノ夢ニモ殘リテ心ヤスクモ行通ヌト云哥ナリ

18-2

18-3　よくトハ過ノ字ヲ書ナリ
よきるとよむなり

新古
19　難波かたみしかき蘆のふ(上)し(上)の(平)まもあはて此世をすくしてよとや
恋一
伊勢

［裏書］／七条后女房　／伊勢守藤原継蔭女　／仍号伊勢
／寛平間為更衣

〈題しらす

19-1　みしかき蘆のふしの間トハ此世ノ幾クナラヌト云心ヲ

19-2　含タルナリ節ノ間トハ兩節間ナリ此短キ世上ヲ

19-3　不レ逢シテハタセトハツラキ事ナリト恨ヤル由也

後撰
20　侘ぬれはいまはたおなし難波なる身をつくしてもあはむとそ思ふ
恋五
元良親王

［裏書］／陽成院第一御子　／御母主殿弘［マヽ］　／兵部卿三品
／天慶六年薨

〈ことといてきて後に京極のみやす所につかはしける

〈此歌拾遺集ニハ題しらすトアリ

20-1 此哥ハ後撰ニことといてきてのち京極の御息所につかはしけるトアリコトイテキテトハ京極ノ御息所ヲ寛平法皇ノヨコトラセ給ヘル事ヲ云〈此事古來風躰抄ニノアリ〉

20-3 此事故元良親王ノ御息所ヘノ密通不レ叶也其後思侘テ此歌ヲ御息所ヘツカハセル也一首ノ心侘ヌレハトハ今ハ密通モ不叶シト侘ル心ナリいまはた同し身をつくしてナリトモ一度前ノ如クアヒタキト云心ナリ難波ナルトハみをつくしてトイハンハ枕詞ナリ

20-8 櫛盍ニ寄タリ ミヲツクシテトハ今我身ヲウシナフトモアハヽヤト云心ナリ

20-10

素性法師

古今

21 今こむといひし許になか月の有明の月を待いてつるかな

恋四

[裏書] 左近中将良岑遍昭事 寛平御時任律師 清和殿上人云〻 俗名左近将監玄利

〈題しらす

21-1 人ノ歸リサマニ如何様又参リコント云ヲ誠ニタノメテ境節長月ノ比有明ノ月ノ細ク成マテ夜

21-2 毎ニ待明シツト云ナリ

21-3

文屋康秀

古今

(第六紙)

22 吹からに野への草木のしほるれはむへ山かせをあらしといふらん

秋下

[裏書] 先祖不詳 或中納言朝康子云〻 縫殿助 後ニ參河掾 号文琳

〈是貞の御子の家の哥合の哥

22-1 吹からにトハ吹故ニナリ草木ノシホルトハ野分ノ風ニハ吹草木ノシホレ行ナリむへトハケニト云詞ナリ

22-2 亘 諾ノ二字ヲ讀山風ト云ヲアラシトモ可レ心得也

22-3

嵐ト云ヲ山ノ風ト嵐ノ字ニ作ルト云義不レ用レ之ナリ

22-4

暴風ト書テ野分ノ風ト順カ和名ニ訓セ[某字に重書]リ

22-5

大江千里

古今

23 月みれは千とに物こそかなしけれ我身ひとつの秋にはあらねと

秋上

[裏書] 参議音人五男 内蔵少允 從五位下

〈これさたの御子の家の哥合によめる

23-1 千とに物こそトハ心ニ思フ事ノ月ニ催サレ行儘ニ次第ニ心ノ悲ク成ナリワレ程ニ不レ見ハ月ヲ見ニテハ

23-2

23-3　ナカルヘシ世上ノ秋ト思ナセトモ身ニ限ルヤウニ悲ミノ極
23-4　リヌト云歌ナリ

古今
24 このたひはぬさもとりあへす手向山紅葉のにしき神のまに〳〵
羇旅

菅家

［裏書］／参議刑部卿是善卿三男　／後贈太政大臣　／延喜三　二　廿五　薨
〈朱雀院ならにおはしましたりける時に手向山にてよみける
／承和十二年乙丑誕生　／母大伴氏女

24-1　此度はトハ今般ト云心ナリぬさもとりあへすトハ　幸
24-2　紅葉ノ時分ナレハ其麻　ヲ神ニ任テちらされん程ニ
24-3　ト云心ナリ裏ノ義ニハ　寛平法皇ノ供奉ノ時ナレハ
24-4　私ノ切麻ナトハ取モ不レ調トアル返リテ礼ヲ顯サルヽ
24-5　所ナリ此御幸ハ自レ南都此山ノ紅葉ヲ御覧ノ時
24-6　ノ歌ナリ古今ニコトカキアリ　因云万葉ニ相坂山ヲモ
24-7　手向山トイヘリ　相坂山ニ手向草祈リヲキツヽトアリ

後撰
25 名にしおはゝ相坂やまのさ(上)ね(上)か(上)つ(上濁)ら(平)人にしら
れて(平濁)くるよしもかな
恋三

［裏書］／定方　／高藤公三男　／天徳四　五　四　薨　五十三
〈女につかはしける

25-1　名にしおはゝトハ相坂ト云ニいひおほせてあふト云山ニ生
（第七紙）
25-2　ルカツラナラハト云心ナリ　さねかつらトハ　五味ト云カツ
25-3　ラハ木ノ葉ノ下草根ナトヲ　蔓ユク物ナレハソレニ
25-4　寄テ人シレスくるよしもかなト云也来ト繰トヲ
25-5　ワタマシテ云詞ナリ　亦　万葉ニハ　さねかつら　玉かつら
25-6　ト異點在レ之コトニヨリテ通シ可レ用也真葛
　　タマカツラ
　　よみかゆる事
25-7　此サネカツラニ付テサヌルト云詞ニ兼シタルト云儀ヲ
25-8　ハ不レ用之万葉ニ　玉くしけみむろと山のさねかつら
25-9　さねくてこそ色にいてしか　トアリコレハサネくトイ
25-10　ハン枕詞ニヲケルナリ

拾遺
26 小倉山峯のもみち葉心あらはいま一度のみゆきまたなん
雜歌

貞(平)信(平濁)公

［裏書］／忠平　／昭宣公基経四男　／拾遺集　小一条太政大臣トアリ
〈亭子院大井河に御幸ありて　行幸もありぬへき所なりと／おふせ給に
　ことのよしそうせんとて
〈大和物語　亭子のみかとの御ともにおほきおとゝ　大井につかうまつり

給へるに　もみちをくらの山に／いろ〳〵のいとおもしろかりけるをかきりなくめてたまて行幸もあらんにいとけうある所になんありける／かならす奏してせさせ奉らんなと申給てつゐてに　をくら山峯のもみちは――となんありける　かくて／かへりたまふて　そうし給けれはいとけうある事なりとてなん大井の行幸といふことはしめ／たまひける

26-1　此歌拾遺ノコト書ニ亭子院大井川に御幸ありて

26-2　行幸もありぬへき所なりとおほせ給にことの由奏せん

26-3　と申てトアリ　一首ノ心只今寛平法皇ノ臨

26-4　幸ヲハ待得タリ此後延喜ノ行幸ヲ待奉ルマテ

26-5　散フト紅葉ニ云懸タルカ此哥ノ感ナリ小倉山ハ嵯峨に

26-6　あり

新古

27　み(上)か(上)の(上)は(平)ら(上)わ(上)き(平)てなかるゝい(上)つ(上濁)み(平)か(平濁)は(平濁)い(平)つ(上)み(上)き(上)とてか恋しかるらん

中納言兼輔

恋一

[裏書]／従四位上右近中将利基六男　／内舎人良門孫　／母伴氏

右衛門督従三位　／号堤中納言　／承平三年　薨　五十七

〈題しらす

27-1　みかのはらトハ山城ノ名所瓶原ト書　涌テ流ルト

27-2　云ハ泉トウケンタメナリ泉川ト同所ナリ日本紀

27-3　ニハ挑河ト云今ハ木津河ト云　上三句序ナリみかの

27-4　原トハ泉河ノ河上ナル歟下ノ句ノ心イツミシ故ニカク恋

27-5　シカルラント云也必　見又ニモアラジ　ホノカニミシヲハおほ

27-6　めき不レ見恋ノヤウニ讀ナスナリ泉　河いつみキト

27-7　云ヘキヲ津の字ヲ澄テ讀ヤウノ秀句ヲハ未来

27-8　記ノ歌ノ類ニ嫌ヘトモ　コレラハ亦ヨキ哥ノ類ナリ

(第八紙)

27-9　歌ニヨリテ可レ有レ用捨

古今

28　山さとは冬そさひしさまさりける人めも草もかれぬとおもへは

源　宗于朝臣

冬部

[裏書]／左京大夫致正息　／右京大夫正四位下

〈冬の歌とてよめる

28-1　哥ノ心イツモサヒシキ山里ナレトモ花紅葉ノ比ハ人

28-2　目モアリシカ今ハ草木モ冬枯テコトヽフ人ノナ

28-3　キマヽニ冬程サヒシキ者ハナシト云也

凡河内躬恒

古今

29　心あてにおらはやおらん初霜のをきまとはせるしらきくの花

秋下

29-1 心あてにトハ心ノヲシアテニナリおらはやト思ふうちニ

29-2 ハヤ菊ト見定ムル方ノアレハおらんト治定スルナリ下

29-3 三句ノ心霜ノヲキマトハセハコソシハラクソレトハミエ

29-4 ネ菊ハマキレヌ花ナリト云心ノアルナルヘシ 假令 法曹

29-5 ノ法門ニ見分相分自證分證自證分ト云四分見

29-6 アリ コレニ類シテ可レ思歟

[裏書] 甲斐權少目 延喜七年正月十三日 任丹波權大目 御厨所預

後任淡路拯

〈しら菊の花をよめる

古今 壬生忠岑

30 有明のつれなくみえし別よりあか月はかりうきものはなし

恋二

[裏書] 大兵衛府生イ

木工允忠衡子 左衛門府生御厨子所 定外膳部 攝津守大目

泉大将定國隨身也

〈題不知

30-1 歌ノ心明ヌトテ我ハイソキ帰ルニ月ハアクルモ不知

30-2 殘ルヲ見テツレナキト云カクル也 其夜ノ別ヨリ

30-3 後思出レハ暁ホトウキ物ハナシト云ナリ今夜ノ別ニハ

30-4 非ス思出ル度毎ニ暁ヲツラシト思ふといふ哥ナリ

30-5 此歌ヲ不レ逢別 恋ト云ハ不レ可レ用歟 但六百番ノ

30-6 俊成ノ詞ハサヤウニ粗ミエタレトモ 定家ノ心其後ノ

30-7 注釋等ニハ前〻ノ儀ヲ用タリ亦或哥ニ 暁のなからま

30-8 しかは白露のおきてわひしき別せましやとアリ

[第31首以下、次号に続く。]

（代表 佐々木 勇・広島大学・教授）